

令和7年度（2025年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

【B日程入試】法律専門科目試験

刑法 出題の趣旨

問題1

問題1は、刑法総論および各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。具体例を設定させるのは、適切な具体例の設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、過失犯の中でも近時重要な内容を含む「管理・監督過失」に関する基本的な理解を問うものである。特に通常の過失との差異を正しく理解しているかを確認する。(2)は、放火罪の中でも特に重点的に講じられる点の1つである公共の危険の意義を正しく理解しているかを確認する。

問題2

問題2は、刑法総論上の典型論点である、共同正犯者間における違法性阻却事由の連帯・個別化の問題と、刑法各論上の典型論点である暴行によらない傷害の問題を組み合わせた事例問題である。前者については、「違法は連帯し、責任は個別化する」というテーゼの例外とも言う判断をいわゆるフィリピンパブ事件（最決平成4年6月5日刑集46巻4号245頁）において判例が行っているが、その評価なども踏まえて過剰防衛の連帯の可否を解答者が正しく理解しているかを問うている。後者については、暴行概念と傷害概念を正しく理解しており、それに基づき傷害の故意がない場合を正しく解決できているかが問われることになる。